

4.15 日照阻害

(1) 現況調査

1) 調査内容

① 日影の状況

調査項目は、各季節において日影となる時刻、時間数とする。

② その他の予測・評価に必要な事項

調査項目は、地形、工作物、住宅・耕作地等の分布状況及び土地利用の状況とする。

2) 調査方法

① 既存資料調査

(ア) その他の予測・評価に必要な事項

地形図、土地利用現況図等の既存資料を整理する。

② 現地調査

(ア) その他の予測・評価に必要な事項

現地踏査により、地形、工作物、住宅・耕作地等の分布状況等を把握する。

3) 調査地域・地点

調査地域は、計画地及び日影の影響が生じる可能性のある計画地周辺とする。

4) 調査期間・頻度

① 既存資料調査

地形、住宅の分布状況及び土地利用の状況資料は、入手可能な最新年とする。

② 現地調査

現地調査の調査期間・頻度は、1回とする。

(2) 予測

1) 予測内容

① 日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化及び日影の影響の程度の変化

予測項目は、日影の変化の程度、日影の変化による周辺の住宅・耕作地等への影響の程度とする。

2) 予測方法

日影の変化の程度については、供用後の各進出企業の施設の完成後における春分、夏至、秋分及び冬至の日の4時点の時刻別日影図及び等時間日影図を作成し、予測する。

住宅・耕作地等への影響については、類似事例又は既存知見に基づく推定により予測する。

3) 予測地域・地点

予測地域・地点は、現地調査の調査地域・地点と同様とする。

4) 予測時期等

予測時期は、供用時（工事が完了した時期）とする。

(3) 評価

1) 評価方法

日照への影響が事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかどうかを明らかにする。

2) 環境の保全に関する配慮方針

日影による周辺への影響が低減されるよう、進出企業に対し、建築物の建物高さや壁面位置等の配慮を依頼する。